

【消化器・肝臓内科】

プログラム責任者 穂苅 厚史

臨床研修達成目標（８週）

１．一般目標（GIO）

臨床医の基本となるプライマリーケアを実施する際に必要とされる内科の基本知識、診療技能と臨床検査手技および診療にあたる基本態度について身につけるとともに、消化器の分野に属する消化管、肝臓、胆道、膵臓および腹膜についての構造と機能を理解し、これらに関する各種疾患の病態生理の理解に基づいた、正しい診断と治療法を選択できる能力を修得する。

２．行動目標（SBO）

- １． 一般尿検査の結果を解釈できる。
- ２． 便の性状、便検査（潜血反応、虫卵検査）の結果を解釈できる。
- ３． 血算一般、白血球分画から結果を解釈できる。
- ４． 心電図（12誘導）検査を実施できるとともに、その結果を解釈できる。
- ５． 動脈血分析を実施できるとともに、その結果を解釈できる。
- ６． 血液生化学検査の項目を適切に選択、指示し、結果を解釈できる。
- ７． 免疫血清学的検査を適切に選択、指示し、結果を解釈できる。
- ８． 細菌学的検査、薬剤感受性検査の適応を適切に判断し、結果を解釈できる。
- ９． 細胞診、病理組織学的検査の適応を適切に判断し、結果を解釈できる。
- １０． 内視鏡検査（消化管、腹腔鏡）の適応を適切に判断し、結果を解釈できる。
- １１． 腹部超音波検査を適切に実施できるとともに、その結果を解釈できる。
- １２． 消化管、肝臓、胆道、膵臓、腹膜の画像検査（腹部単純 X 線撮影、消化管造影、胆道造影、膵管造影、腹部血管造影、腹部 CT、腹部 MRI、核医学）の適応を適切に判断、指示し、結果を解釈できる。
- １３． 胸部 X 線撮影の結果を解釈できる。
- １４． 末梢からの注射法（皮内、皮下、筋肉内、静脈内、点滴、および静脈確保）を適切に実施できる。
- １５． 中心静脈の確保を、安全かつ適切に実施できる。
- １６． 静脈血採血を実施できる。
- １７． 目的に応じて腹腔穿刺を適切に実施できる。
- １８． 導尿を実施できる。
- １９． 胃管の挿入と管理ができる。
- ２０． その他のドレーンチューブ類の管理を適切に実施できる。

- 2 1. 局所麻酔法を実施できる。
- 2 2. 創部の消毒とガーゼ交換が実施できる。
- 2 3. 疼痛のコントロール適切に実施できる。
- 2 4. 病態に応じた療養（安静度、食事療法、体位の指示、入浴の指示など）を指導できる。
- 2 5. 消化器疾患を中心とした内科疾患の治療に用いられる薬物の作用機序、適応、副作用、相互作用について理解し、適切な薬物療法が実施できる。
- 2 6. 病態に応じた適切な輸液管理ができる。
- 2 7. 輸血（成分輸血を含む）の効果と副作用を理解し、適切な手続きに基づいて、適切に実施することができる。

3. プログラム

1. 第1週～4週

指導医のもとに、消化器肝臓内科入院患者の担当医として、内科的な管理を修得する。

①受け持ち患者に的確な医療面接、身体診察、臨床検査を実施し、病態把握に努め、適切な診療計画を策定する。

②診療計画の実施に際して必要な検査、治療を実施する準備と介助を行う。

③画像カンファレンス、病理カンファレンス、外科との合同カンファレンス、医局カンファレンスに参加する。

④指導医とともに当直業務を実施し、プライマリケアを実践する。

2. 第5週～8週

指導医のもとに、消化器肝臓内科入院患者の担当医として、引き続き内科的管理を修得する。

上記の①～④に加えて

⑤腹部超音波検査を指導医とともに実施し、その結果を解釈できる能力を身につける。

⑥消化管疾患の内視鏡下治療の介助と、治療後の管理を修得する。

⑦肝癌患者に対する様々な治療の介助と治療法ごとの治療後の管理について修得する。

3. 外来研修

外来担当医師の指導のもとに、外来患者の病歴聴取と一般診察法について修得するとともに、これらの情報をもとに問題を解決する能力を身につける。